

自然災害への備えは万全ですか？ チェックしてみよう！



☐ 災害リスクを正しく認識しよう

Q ご自宅のある場所に、どんな災害のリスクがあるか理解していますか？

お住まいの市区町村などが公表している災害リスクに関する情報(水害ハザードマップ、津波浸水想定区域図、火山防災マップ、土砂災害警戒区域図など)を確認し、自宅のある場所にどんな災害リスクがあるのか確認しましょう。また、災害時にどこに避難すればいいのかも確認し、家族で話し合しましょう。

☐ 災害に強い家にしよう

Q ご自宅の免震性・耐震性・耐火性は十分ですか？

免震性・耐震性・耐火性に優れた住宅は、自然災害による被害を最小限に食い止め、家族や財産を守るうえで非常に重要です。耐震診断や、必要に応じて耐震補強を実施しましょう。また、家具の固定や、配置の工夫を行うことや、地震の揺れを感知して電気を自動的に止める「感震ブレーカー」も有効です。

<被災前に活用できる制度>

- 住宅の耐震化に関する補助(耐震診断等)…耐震診断や耐震改修に係る所有者の負担の軽減を図り、住宅・建築物の耐震化を促進するため、国(国土交通省)や地方公共団体では、様々な支援制度を設けています。
- 地震保険料控除制度…契約者が支払った保険料・共済掛金のうち所定の金額について税法上の地震保険料控除の対象となり、所得税(最大5万円)・個人住民税(最大2万5千円)について課税所得額から控除されます。

☐ 保険・共済の内容を知ろう

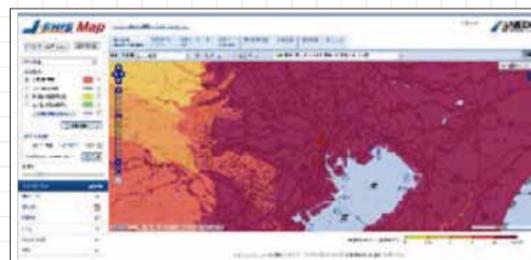
Q 保険・共済の補償対象・補償内容を理解していますか？

被災時に支払われる保険金・共済金の額は被害の程度や災害の種類によっても異なります。保険・共済の補償対象・補償内容をよく確認して、ご自宅のリスクに見合った保険・共済を選びましょう。

※保険・共済には、住宅や家財を新価(再調達価額)で評価するものと、時価(経年による劣化を考慮した額)で評価するものがあります。時価を基準として契約した場合には、保険金・共済金だけでは復旧に必要な費用の全額をまかなえない可能性があります。(地震保険の契約金額は、法律に基づき火災保険の契約金額の30~50%の範囲内で設定します。その他、契約内容によって補償額に制限がある場合があります)

我が家が大きな地震に襲われる可能性ってどれくらいあるの？

ご自宅の地震リスクがわからないという場合には、防災科学技術研究所の「J-SHIS Map」をご活用ください。住所を入力するだけで、その地点の地震リスクが表示されるシステムです。
<http://www.j-shis.bosai.go.jp/map/>



▲イメージ

☐ 生活再建に必要なお金を知ろう

Q 万が一住宅が被害を受けた場合、再建にどのくらい費用がかかるか知っていますか？

過去の多くの災害では、保険・共済に入っていなかったために住宅再建が非常に困難になった被災者がたくさんいらっしゃいます。住宅が被害を受けた場合に使える公的な支援制度もありますが、それだけで住宅再建が出来るものではありません。生活の再建には家財の再取得も必要になります。いざという時のために、再建費用を試算し、保険・共済による備えを検討してみましょう。

2017.05作成版

(出典:内閣府作成 水害・地震から我が家を守る保険・共済加入のすすめより抜粋)

学ぶ 備える

いばらきの地震

ご存知ですか？

茨城県沖の地震
(繰り返し発生する地震以外の地震)

70%程度

水戸で震度6弱以上の揺れ

81%以上

今後30年以内にあう自然災害・事故などの発生確率

東京30km圏台風通過

ほぼ100%

大雨で罹災

0.5%

台風で罹災

0.48%

交通事故で負傷

24%

火災で罹災

1.9%

航空機事故で死亡

0.002%

※地震調査研究推進本部ホームページ(http://www.jishin.go.jp/evaluation/long_term_evaluation/ltc_summary/)及びhttp://www.jishin.go.jp/evaluation/seismic_hazard_map/shm_report/shm_report_2017/)より作成

地震は避けることができない自然災害です。

だからこそ地震について正しく学び、「身近な危険」

として自分の身は自分で守る心構えが必要です。

備えあれば
憂いなし

茨城県地震保険・共済加入促進協議会



今後30年以内に
茨城県周辺の
主要活断層帯と
海溝で起こる
地震の発生確率
(確率は2017年1月1日起点)



(注) 赤線の領域は相模トラフ沿いのM8クラスの地震の評価対象領域、黄線の領域は相模トラフ沿いのM7程度の地震の評価対象領域を示しています。
※地震調査研究推進本部ホームページ (http://www.jishin.go.jp/evaluation/long_term_evaluation/ite_summary/) より作成

過去に茨城県に被害を及ぼした主な地震

日本歴(西暦)	震源地	マグニチュード	県内最大震度	茨城の被害状況
延宝5.10.9(1677)	関東磐城(房総半島南東沖)	7.4	-	沿岸に津波、水戸領内で溺死36
明治28.1.18(1895)	茨城県南東部	7.2	-	圧死者4、負傷34、全壊家屋37
大正10.12.8(1921)	茨城県南部	7.0	4	墓石多数倒壊、田畑、道路亀裂
大正12.9.1(1923)	神奈川県西部(関東大震災)	7.9	4	死者5、負傷者40、全壊家屋517、半壊家屋681
昭和62.12.17(1987)	千葉県東方沖	6.7	4	負傷者24、家屋の一部破損1,252
平成14.2.12(2002)	茨城県沖	5.7	5弱	負傷1、建物被害12棟
平成14.6.14(2002)	茨城県南部	4.9	4	負傷1、建物被害8棟、崩壊5
平成17.2.16(2005)	茨城県南部	5.4	5弱	負傷7
平成23.3.11(2011)	三陸沖(東日本大震災)	9.0	6強	直接死24、関連死37、重症33、行方不明1、全壊家屋2,620

※水戸地方気象台ホームページ「茨城県の主な地震災害」を加工して作成

学ぶ地震を

過去の震災から学び、
未来に活かす。



防災の基本は「自助」です。

大規模な災害時、「公助」だけに頼りすぎるのは危険です。自分と家族の命を守るため、自分でやれることはやってみる。「自助」を高めることが防災の基本です。

そのためには、日頃からの備えが必要です。

備え① 避難について確認 (家族で話し合しましょう)



- 非常用品の備蓄
- 緊急避難場所、避難所、道順の確認
- 家族との連絡方法

災害が発生したら
災害用伝言ダイヤル・
災害用伝言板(携帯)・
インターネット(Web171)

備え② 家の中の安全対策

タンス・食器棚はL字金具や支え棒で、照明器具は鎖と金具で固定し転倒・落下を防ぐ。

ガラスには飛散防止フィルムを貼る。

出入口や通路には物を置かない。

自宅の耐震が心配な方は耐震診断を受けましょう。

備え③ 地震保険・共済への加入

地震保険・共済は、被災後の当面の生活を支え、将来の生活に向かって最初の一步を踏み出すために大切な役割を果たします。



地震に備える
自身で
自分と家族の命は自分の
努力で守る。

災害用伝言ダイヤル

被災したAさんが、無事であることを伝えたい
伝言録音 171 + 1 + Aさんの自宅の電話番号
家族・親戚・友人がAさんの安否を確認したい
伝言再生 171 + 2 + Aさんの自宅の電話番号

災害用伝言板

メッセージ登録・確認(NTT docomoの場合)
スマートフォン・タブレットから
dメニュー▶災害用安否確認▶災害用伝言板▶安否の登録/確認
iモードケータイから
i Menu▶災害用安否確認▶災害用伝言板▶安否の登録/確認

体験サービス提供期間

- 毎月「1日」「15日」・正月三が日
- 防災週間(8月30日~9月5日)
- 防災とボランティア週間(1月15日~1月21日)
- 防災週間(8月30日~9月5日)